

**1 東追分** 〔県指定史跡〕  
 関宿の東の入口にあたる東追分は、東海道と伊勢別街道の分岐点です。大鳥居は伊勢神宮を遷すためのもので、二十一年に一度の伊勢神宮式年遷宮の際、内宮宇治橋南詰の鳥居が移されてきます。常夜灯・道標なども残っています。



**2 御馳走場**  
 関宿に出入りする大名行列の一行を、宿役人が出迎えたり見送ったりした場所です。関宿には四力所の御馳走場がありました。



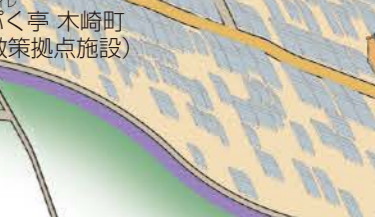
**3 開雲楼と松鶴楼**  
 この二軒は関を代表する芸妓置店でした。東側の開雲楼を見ると、表の堅繁格子や弁柄塗りの鴨居や柱、こつた意匠の二階手摺りや格子窓などにその面影を残しています。



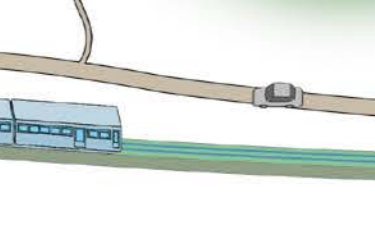
**6 瑞光寺権現柿** 〔市指定史跡〕  
 瑞光寺は中世にこの地域を治めていた関氏ゆかりの寺です。境内にある権現柿は、徳川家康が関宿に立ち寄った時、賞味したと伝えられている柿の木です。



**4 百五銀行**  
 町並みに配慮した意匠の銀行。平成九年度、三重県さわやかまちづくり賞(景観づくり部門)を受賞しました。



**5 旧川北本陣の門** 〔市指定文化財(建造物)〕  
 延命寺山門は、旧川北本陣の門を移築したものです。



**12 橋爪家**  
 橋爪家は江戸時代の初めから両替商を営み、江戸にも出店を持つ豪商でした。街道に面して三角形の屋根をみせるこの建物は、関宿ではめずらしいものです。



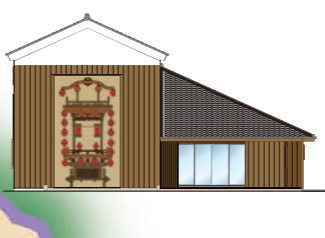
**11 伊藤本陣跡**  
 関宿には、川北本陣、伊藤本陣の二軒の本陣がありましたが、本陣は、参勤交代の大名や、公家、公用の幕臣などが利用した格式の高い宿泊施設です。現在残るこの建物は、本陣の店部分にあたります。



**16 旧脇本陣の門**  
 福蔵寺裏門は、玉屋の向かいにあった秋屋脇本陣から移築したものです。



**9 関の山車会館**  
 「関の山」という言葉の語源にもなった関宿の山車は、最盛期には十六基ありました。互いに華美を競い、また狭い関宿を練ったことから生まれた言葉です。現在は四台の山車が残り、四力所に山車倉があります。



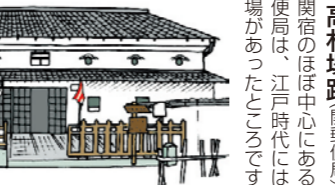
**「道の駅」関宿**  
 国道1号沿いに位置し、観光案内所をはじめ、土産物の販売コーナー、軽食コーナー、また道路情報提供装置を備えた休憩施設などがあります。



**17 停車場道**  
 明治23年、四日市と草津を結ぶ関西鉄道が開通した時、関宿停車場への道として整備されました。「ステーション道」と呼ばれていたそうです。



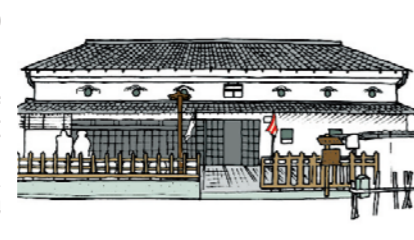
**18 地藏院**  
 〔国指定重要文化財(建造物)〕  
 「関の地蔵」に振舞われて、奈良の大仏様に取る」の俗謡で有名な関地藏院。天平13年(741)行基菩薩の開創と伝えられています。近郷の人々に加え、東海道を旅する人々の信仰を集め、現在でも多くの参拝客でにぎわっています。境内の本堂・鐘楼・愛染堂の三棟が国の重要文化財(建造物)に指定されています。



**19 地藏院門前の町並み**  
 「会津屋」は関宿を代表する旅籠のひとつです。もとは山田屋と言い、小方が育ったことで知られています。「二階に洋風意匠の窓がついた」「洋館屋」、米をつく水車音から名付けられたという「川音」、伝統のある鍛冶屋など、特色のある町屋が並んでいます。



**20 関の特産・火縄**  
 江戸時代の関宿の特産物として火縄があり、新所を中心に数十軒の火縄屋がありました。火縄は鉄砲に用いたため大名の御用もありましたが、道中の旅人が煙草などに使うために購入したため大いに繁盛しました。



**21 西追分・休憩施設** 〔県指定史跡〕  
 関宿の西の入口にあたる西追分は、東海道と大和・伊賀街道の分岐点です。石柱には「ひだり八いかやまとみち」とあります。また、休憩施設には、鈴鹿関跡の調査成果がパネル展示してあります。



至京都・大津  
 至上野・奈良

至名古屋  
 東追分  
 至名古屋

至関インターチェンジ

